

5、6年

高学年は、丹後視力障害者福祉センター点字指導員の近藤さんに、視覚障害についてアニメ「鬼滅の刃」の登場人物を例えに挙げながら、見え方は様々であることを教えてもらいました。視覚障害の見え方を再現する眼鏡を配布してもらい、もし障害があったら文字はどのように見えるのか体験しました。体験を通して障害があることの不自由さについて知り、自分たちができることについて考えました。後半は点字を覚えてもらい、自分の名前を打つことができました。

〈子どもたちの感想より〉

5年

私は視覚障害を知っていたけど、今日の学習で目がまったく見えない人、見えづらい人、真ん中は見えるけど周りが見えない人などいろいろあるのが分かった。弱視体験では、3つのめがねを使って見え方を体験したけど、どれも見えにくく、視覚障害者は本当に大変なんだなと思いました。自分の目を大切にしていきたいと思います。点字は指でさわるから自分はまったく分からないけど、視覚障害者でも分かる人が少ないのを知りました。点字体験では、あなの位置を覚えてやるのが本当にむずかしかったです。よい学習になったと思います。

5年

私は障害がある人は、大変だということは分かっていたけど、点字を読むことや生活や人との関り方で、時には誤解をされることもあるので、自分が思う以上に大変だと知りました。くもっているめがねをかけたら、どんなに生活が大変なのか分かりました。点字の体験は、楽しくておもしろかったです。

目が不自由な人は、もうどう犬のお世話をどうやってするのか知りたいです。不自由な人が、これからも過ごしやすいよう、色々考えていきたいです。

めがねをかけて視野狭窄、白濁、中心暗点の体験をしました。



小さな穴に点筆を打つのは大変でしたが集中して行っています。



6年

視覚障害について学んでみて、はじめは目が全く見えない人が、視覚障害者だと思っていたけど、弱視などの少し見える人も障害者だということを知れてよかったです。弱視の体験をしたときに、白だくなど色んな見え方があって、人それぞれだということが分かりました。点字では、ルイ・ブライユさんが作ったことが改めて知りました。点字の体験をしてみて、点字はローマ字に似ているなと思ったし、左からうつことが分かりました。また楽しかったし生活にも点字があることが知れたので探してみたいです。これから共生社会を目指したいです。そのために、自分ができることを見つけ、行動したいです。

6年

障害者理解教育で、今回は視覚障害について学び、白内障という病気があることを知りました。白内障は40歳以上の人からだんだんなりやすく、80歳以上の人だとほぼ100%になることを知った時、白だくのしょう状はだれにでもなる可能性がすごく高いんだなと思い、おどろきました。そして白だくだけでなく、視覚障害は人によってそれぞれ見え方がちがうことも分かりました。点字は障害者にとって欠かすことのできないもので、点筆を使い書いてみるのも、手で点字を読んだりするのも慣れなくて、思っていたよりもすごく難しかったです。また、生活の中でも点字を探してみたいと思いました。

障害者と共に生きる共生社会を実現するために、私はまず一人一人、障害者について理解していくことが大切だと思いました。それは、障害について理解していないと、共生社会を作っていくことが難しいと思ったからです。一人一人の意識で共生社会を実現させていきたいです。